

JA共済連と早稲田大学が共同で開講している寄附講座が 4年目を迎えます

～ <農>を中心に東北の未来を考える ～

2015年3月27日

2012年度より、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(以下 WAVOC)と、JA共済連(全国共済農業協同組合連合会)は、三陸沿岸地域の震災復興へのアプローチと農村の社会経済をテーマとする寄附講座を開講してきました。2015年度は半期の講義型の科目のほか、フィールドリサーチにより地域コミュニティ全体の復興に取り組む活動や、東北の未来を考える実習型の科目を通年で開講します。

1 本講座開講の意義(早稲田大学)

農山漁村に興味を持つ学生は少なくありませんが、早稲田大学では、農村地域について体系的・実践的に学ぶ機会が限られていました。そこで、本講座によって学生の知識欲求に応え、震災の影響を受けた農村地域の諸問題について考える機会を提供します。また、学生が被災地へ赴き、机上の学習だけではなく実際に現地で地元の方々と共に考え協働することで、課題発見と対応、発信に取り組む機会とします。

2 本講座開講の意義(JA共済連)

2012年4月に、早稲田大学の学生が、「震災復興」や「農村社会」を通じて、「絆」や「助け合い」の重要性を学べるよう、本寄附講座を開設し、これまで多くの学生に受講いただくとともに、学生が赴いた被災地の方々からも高い評価をいただいて参りました。

4年目を迎える2015年度は、「震災復興への取組みの深化」をテーマとして、より一層学生の問題意識や知識欲求に応えうる内容といたしました。本講座を通じて、農業・農村が抱える諸課題や被災地の現状について、学生の理解がすすむことを期待しております。

3 講義概要

(1) 講座名: JA共済寄附講座 東北復興のまちづくりー農からの地域創生ー

期 間: 2015年4月～2016年3月

講座内容: 東日本大震災から5年目、多くのむら・まちが復興してきました。本講座では、岩手・宮城・福島県の東北沿岸部を12地区に区分けし、学生チームはそのうち一つを分担して現地調査をおこない、学生の視点で独自のまち・むらづくりの提案活動を行います。

また、東京(練馬区)、福島(いわき市)、東北沿岸部の合計3回のフィールドワークをおこない、9～12月に東京において、連続ミニ・イベント「こだわり野菜カフェ」(仮称)を開催、イベントを考察し生産者にフィードバックする予定です。

さらに、分担して現地調査をおこなった東北沿岸部12地区の取組みをまとめ、比較しながら東北の未来について意見交換し、その報告と映像を見ながら語るシンポジウムを開催する予定です。

(2) 講座名: JA共済寄附講座 農村地域の経済と社会を見る目

期 間: 2015年4月～2015年9月

講座内容: 農山村社会の成り立ち、農業政策の展開と現状、JAの役割、共済・保険の仕組みと機能、農村と女性、6次産業化、再生可能エネルギー、農産物貿易などを学びます。

以 上